

代表取締役社長

藤塚 勝正



20世紀における技術の進歩により、人類は便利で快適な生活を享受してきました。しかし便利さの一方で、経済活動の大規模化に伴い、環境への負荷が増大したため、地球の温暖化をはじめ、環境汚染物質や廃棄物処理などの各種環境問題が年を追うごとに深刻さを増した時代でもありました。

新世紀を迎えた今も、この状況に変化はなく、環境問題は悪化する一方であります。私は、20世紀の大量生産・大量消費中心の自らを反省し、率直に自然との調和に回帰し、地球誕生の原点に戻ることが21世紀の最大の課題であると考えます。

現在、環境問題として取り上げられている多くの現象は、大気や水域・土壌へ排出される排出物に由来しております。環境問題に的確に対応するためには、エネルギーや資源を循環させ、排出物を最少化する循環型社会への転換が必要であります。このため、2000年6月には循環型社会形成推進基本法が制定され、2001年4月には特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）、資源有効利用促進法（改正リサイクル法）などが施行されています。

沖電気は環境への取り組みを企業経営の重要テーマとして位置付け、1999年にエコ・プラン21を策定し環境保護活動を積極的に展開してまいりました。本プランに基づく2000年度の活動結果は、廃棄物削減目標の大幅達成など、活動項目の大半におきまして年度目標を上回ることが出来ました。

「エコ・プラン21」に掲げました2000年度目標は達成出来ましたが、社会ニーズをリードしていくため継続的にシステムの見直しを行って参ります。本年5月には、「エコ・プラン21」をグレードアップし「エコ・プラン21（2001年度版）」としました。ここでは、一段と高い目標値を再設定し、温室効果ガス排出量の削減やゼロエミッション工場の達成等、循環型社会への貢献を追求し、更なる環境保護活動の強化に取り組むこととしました。本計画をもとに、製品の生産から廃棄に至るライフサイクルを通じた環境負荷低減の取り組みを、沖電気グループ全体、従業員ひとりひとりに浸透させて参ります。地球環境への配慮も私共の商品のひとつであるという考え方で、企業活動を推進していく所存であります。

この報告書が、沖電気グループの環境問題への取り組みにつきまして、皆様方のご理解を賜る上でお役に立てれば幸いと存じます。